

トラ技書誌DB検索ツール

ユーザーズ・ガイド

Rev 1.5

2019年 4月

よし ひろし

謝辞

このソフトウェアを開発するに当たり、次のソフトウェアを活用させていただきました。
この場を借りて御礼申し上げます。

wxWidgets

Code::Blocks

wxSmith

目次

1 はじめに.....	4
1.1 動作環境と制限事項.....	4
2 インストール.....	4
2.1 アプリケーションのインストール.....	4
2.2 CDROM 版トラ技のページ表示.....	5
2.2.1 CDROM 版トラ技のインストール.....	5
2.2.2 CDROM 版トラ技を導入していない時.....	5
2.2.3 PDF ビューワの設定.....	6
3 画面操作概要.....	7
3.1 プログラム起動時の画面と操作.....	7
3.2 検索画面.....	8
3.2.1 検索オプション.....	9
3.2.2 ポップアップ・メニュー.....	10
3.3 詳細画面.....	11
3.4 ファイル出力.....	12
4 検索方法.....	13
4.1 簡単な検索.....	13
4.1.1 簡単検索事例1.....	13
4.1.2 簡単検索事例2.....	13
4.1.3 簡単検索事例3.....	14
4.2 複雑な検索.....	15
4.2.1 複雑な検索事例1 (項目の指定).....	15
4.2.2 複雑な検索事例2 (複数キーの OR 検索).....	16
4.2.3 絞込レベル.....	17
5 入力ファイルの形式.....	18
6 初期化ファイル.....	19
7 動作状態記録ファイル.....	28
8 開発履歴.....	28

1 はじめに

このソフトウェアは、トラ技書誌データベース検索ツールとして開発されましたが、一般的にはCSV形式のファイルを開覧するためのツールとして位置づけられるものです。

CSVファイルの1レコード目を項目名レコードとして、2件目以降をデータとして扱い、あまり複雑でないデータベースの検索処理を提供します。

専用のデータベースや表計算のようなツールを使わないで検索を簡単に行うときに重宝します。

本ソフトウェアは無保証で、個人的な使用のために提供します。本ソフトウェアを使用したことによるいかなる損害・損失等については保証しかねますので、その点をご理解の上ご利用ください。

多くの方のお役に立てば幸いです。

1.1 動作環境と制限事項

次の OS 上での動作を確認していますが、動作を保障するものではありません。

Windows8, Windows 7, Windows Vista, Windows XP, Windows 10

必要メモリー量は少なくとも 10MB、動作中には増えて(データ量にもよりますが)数十 MB 必要となります。

CDROM 版トラ技のページを表示する時は PDF ビューワを呼び出すので、PDF ビューワ分のメモリーがさらに必要になります。

項目数は最大 40、レコード数は 32,760 件、検索キーは最大 50 です。

2 インストール

2.1 アプリケーションのインストール

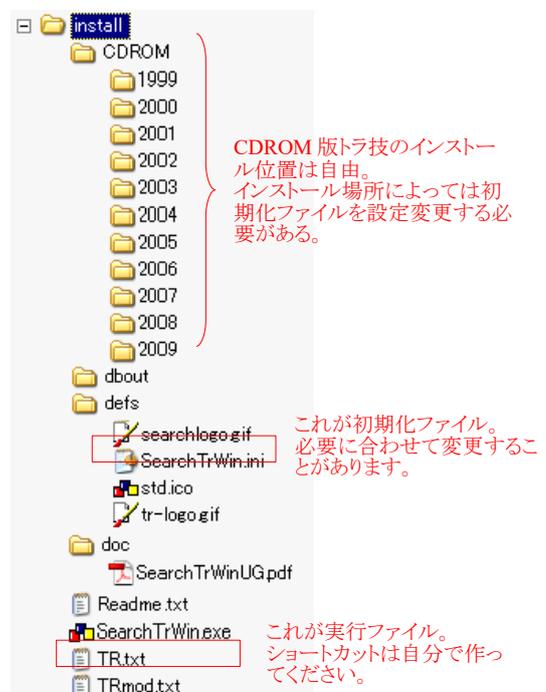
Windows アプリケーションですが、動作環境への影響を最低限に抑えるため、一般的なインストーラーなどは使用せず、またレジストリーへの書き込みも行いません。

任意のフォルダへ必要なファイルを展開あるいはコピーすることで動作します。

右にインストール時のフォルダ構成例を示します。任意のフォルダ「install」下に必要なファイルが展開されます。「install」として示されているフォルダの名称は自由に変えていただいてもかまいません。

CDROM 版トラ技のインストール位置は自由ですが、標準で提供する初期化ファイルでは右図のような構成を想定しています。

アンインストールも、フォルダごと削除することで可能です。



本プログラム終了すると、次のファイルを生成します。

defs¥SearchTrWin.pos

このファイルには、ウィンドウの位置や大きさや設定情報などを書き込みます。

次のプログラム起動からは、前回の終了状態から復帰します。

初期状態から始めたい場合にはこのファイルを削除してください。

2.2 CDROM 版トラ技のページ表示

Rev1.2 から CDROM 版トラ技のページを表示する機能が追加されました。

ページ表示の機能を利用するには、CDROM 版トラ技を購入し、インストールされている必要があります。

また、表示には PDF ビューワを利用しますので、使用されるパソコンに従って設定を行います。

Rev1.3 から、ビューワの起動時に引き渡すパラメタを自由に設定できるようになりました。これにより、ユーザの好みのビューワを使用することが可能になりました。

2.2.1 CDROM 版トラ技のインストール

CDROM 版トラ技は、各年度ごとの CDROM に各月分の PDF ファイルが収納されています。本ソフトからページ表示を行うためには、これらのファイルがディスク上に配置されている必要があります。

標準状態では、インストールしたフォルダ直下に CDROM フォルダを作成し、その下に各年ごとのサブフォルダを作成して、その各年のフォルダに PDF ファイルを配置します。

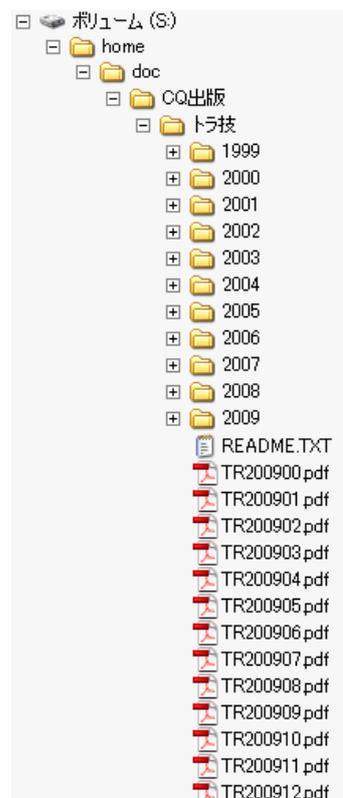
これと異なる配置を希望する場合は、初期化ファイルを CDROM 版トラ技の配置場所に合わせて変更してください。

次に、CDROM 版トラ技を「S:/home/doc/CQ 出版/トラ技」フォルダに配置した時の設定例を示します。フォルダーの区切り記号は¥ではなく、「/」に変更して設定することに注意してください。

```
PdfFileRootDir=S:/home/doc/CQ 出版/トラ技
```

また、このように設定した時のフォルダ構成を右図に示します。

Ver1.5 から、各年度ごとの PDF ファイルをサブディレクトリ【toragi_pdf】に配置できるようになりました。



2.2.2 CDROM 版トラ技を導入していない時

メイン画面にある【CDROM 版トラ技のページを開く】のチェックを外しておいてください。

ページを開く設定になっていると、データ・レコードを選択した時に、CDROM 版トラ技のページを表示しようとして、エラーメッセージが表示されます。

2.2.3 PDF ビューワの設定

表示にはPDFビューワが必要です。ビューワをコマンドラインで起動するとき、pdfファイル名とページ番号を付与して起動します。ビューワ側でパラメタを受け付けることができれば、一覧表をクリックすることで該当するページを表示することが可能です。

設定ファイルに、いくつかのPDFビューワを使うときの設定例を示したので、ご利用下さい。

```
#=====+
#                               |
#                               |
#                               |
#=====+
#
# 誌面を表示するプログラムを指定します。
#
# PDF XChange Viewer
PageViewer=C:/Program Files/Tracker Software/PDF Viewer/PDFXCview.exe
# SumatraPDF
##PageViewer=C:/Program Files (x86)/SumatraPDF/SumatraPDF.exe
# SkyPDF
##PageViewer=C:/Program Files (x86)/SKYCOM/SkyPDF Viewer/SPViewer.exe
# Foxit J-Reader Plus
##PageViewer=C:/Program Files (x86)/Foxit Software/Foxit J-Reader Plus/Foxit Reader.exe
# Acrobat Reader
##PageViewer=C:/Program Files (x86)/Adobe/Reader 11.0/Reader/AcroRd32.exe
# batch file
##PageViewer=pdfViewer.bat
#=====+
#                               |
#                               |
#                               |
#=====+
#
# 誌面を表示するプログラムを起動するときの
# パラメタを指定します。
# 次の記号を使って、ファイル名やページを指定します。
#           %pdf%   pdf ファイル名を埋め込みます
#           %page%  ページ番号を埋め込みます
#
# PDF XChange Viewer
pageViewerParam=/A "page=%page% zoom=150 pagemode=bookmarks" %pdf%
# SumatraPDF
##pageViewerParam=-reuse-instance -zoom 125 -page %page% %pdf%
# SkyPDF
##pageViewerParam=%pdf% /A page=%page%
# Foxit J-Reader Plus
##pageViewerParam=%pdf% -A page=%page% zoom=125 pagemode=bookmarks
# Acrobat Reader
##pageViewerParam=/A page=%page% %pdf%
# batch file
##pageViewerParam= %page% "%pdf%"
```

フォルダーの区切り記号は¥ではなく、"/"に変更して設定することに注意してください。

3 画面操作概要

3.1 プログラム起動時の画面と操作

プログラムを起動すると、CSVファイルを読み込み、下図のような画面を表示します。操作はこの画面から行います。他の Windows アプリケーションのようなメニューはありません。

【データ数】読み込んだCSVファイルのレコード数を示します。

【検索キー】検索したいデータ・レコードに含まれる文字を設定します。検索キーが複数あるときは、複数のキーをカンマあるいはスペースで区切って入力してください。すべてのキーが含まれるデータを検索します。

【検索】ボタンをクリックすると、検索キーを含むデータ・レコードを一覧表示します。

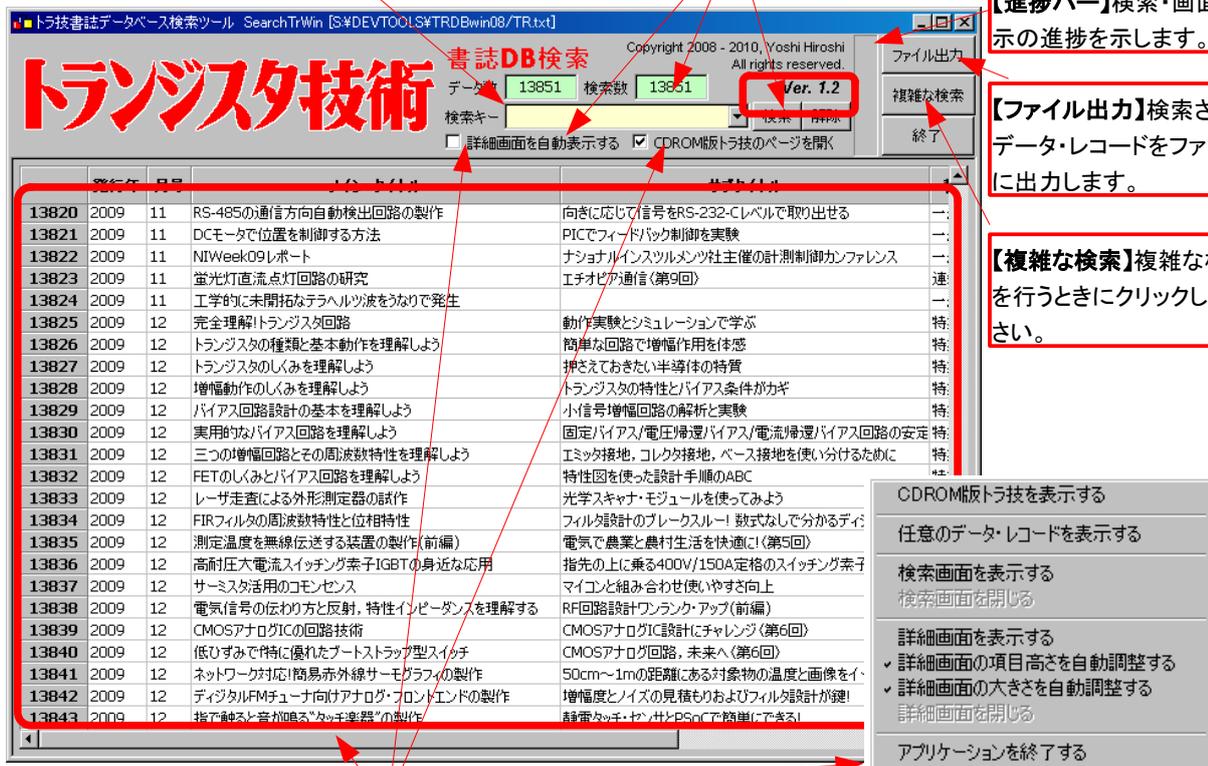
【戻る】ボタンでは、前の検索結果を表示します。

【検索数】ヒットしたデータ・レコード数を検索数として表示します。

【進捗バー】検索・画面表示の進捗を示します。

【ファイル出力】検索されたデータ・レコードをファイルに出力します。

【複雑な検索】複雑な検索を行うときにクリックしてください。



【一覧表】データ・レコードの一覧を表示します。

【詳細画面表示】データ・レコードを選択すると、詳細画面を表示します。

検索キー下部の [データ選択時、詳細画面を自動表示] がチェックされているときは、マウスの左クリックかカーソル移動でデータ・レコードを選択できます。チェックがついていない時は、リターンキーを押下するか、左ダブル・クリックで選択してください。

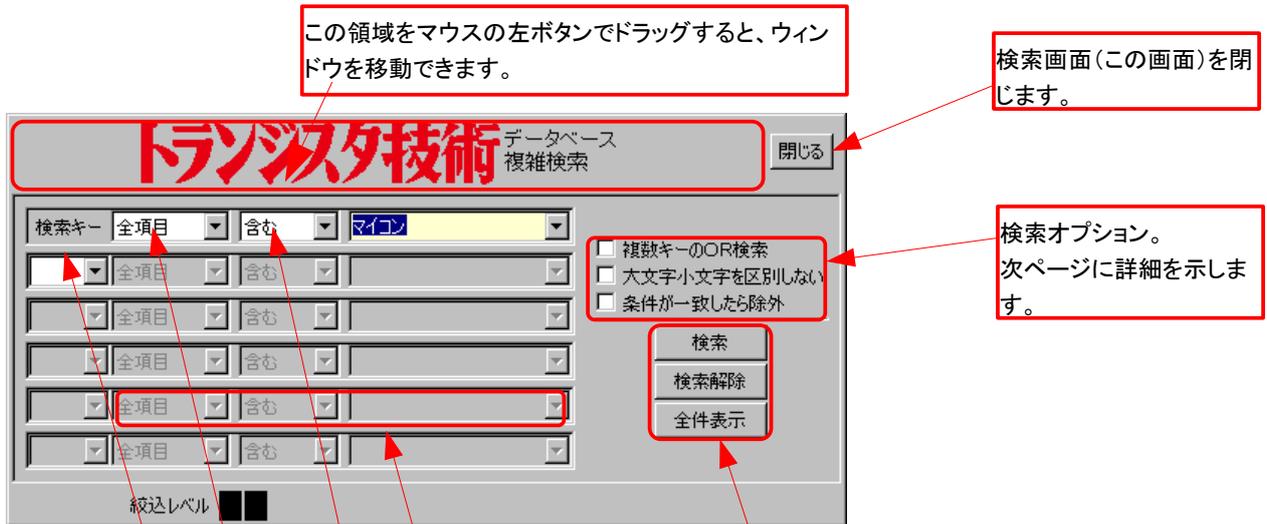
【CDROM 版トラ技ページ表示】

CDROM 版トラ技が購入・インストールされている時、レコードを選択すると該当ページを表示します。

【ポップアップ・メニュー】マウスの右ボタンをクリックすると、ポップアップ・メニューを表示します。

3.2 検索画面

複雑な検索を設定するとき使用する画面です。必要に応じて表示／非表示できます。



この領域をマウスの左ボタンでドラッグすると、ウィンドウを移動できます。

検索画面(この画面)を閉じます。

検索オプション。
次ページに詳細を示します。

【検索】を繰り返すと、絞込レベルが1段ずつ増えていきます。
このインジケータは、絞込みの深さを示しています。
【戻る】ボタンではこの絞込レベルを1段ずつ減らすことができます。
【全件表示】では、このレベルを一気にゼロまで解除します。
また、絞込レベルのインジケータをマウスの左ボタンでクリックして、過去に検索した絞込レベルの結果を閲覧することができます。
【黒色表示】は、現在表示されている絞込レベルよりも浅いので、いつでも表示することができます。
【緑色表示】は、現在表示されているよりも深い絞込レベルですが、次の検索を行うまでは有効です。

ここでは、検索条件を設定します。

【含む】 検索キーの文字列が検索対象に含まれる
【含まない】 検索キーの文字列が検索対象に含まれない
【>】 検索キーより大きな数値が含まれる
【>=】 検索キー以上の数値が含まれる
【=】 検索キーと等しい数値が含まれる
【<=】 検索キー以下の数値が含まれる
【<】 検索キーより小さな数値が含まれる
【範囲】 検索キーの最大値以下、最小値以上の数値が含まれる

数値比較のとき、文字列中から数値を抽出します。このとき、全角・半角の区別はありません。

検索対象を選択します。

【全項目】レコード全体から検索キーを検索します。
【(項目名)】特定の項目から検索します。

検索結果で論理演算をして、最終検索結果を求めます。

【AND】 直前までの検索結果と次の検索結果の論理積
【OR】 直前までの検索結果と次の検索結果の論理和

3.2.1 検索オプション

□複数キーのOR検索

検索キーには、複数のキーを設定することができます。

標準状態では、複数検索キーが設定された場合には、すべてのキーが含まれるデータだけを抽出します。(AND検索)

このオプションを設定すると、設定されたキーのどれか1つでも検索対象に含まれているデータを抽出します。(OR検索)

設定例を右図に示します。

この例では、「AVR または PIC が含まれる」かつ「SPICE または OPIC が含まれない」データを抽出します。



□大文字小文字を区別しない

もとは、英文字の LowerCase と UpperCase の区別をしないで検索するためのものです。

しかし日本語での検索のために、次の区別もなくなります。

分類	概要
カタカナ/かたかな/ひらがな、いくつかの記号(、\等々)	半角/全角の区別はなくなります。 濁音と半濁音は2文字として扱い、半角カタカナとのマッチングが可能です。(この副作用で、たとえば、「ぶ」や「ふ」は「ふ」と一致することがあります。) 促音「っ」や小さい「あ」や「ゃ」は大きい文字と区別しません。
数字(半角と全角)	半角/全角の区別はなくなります。
括弧類	括弧類には多くの種類がありますが、区別しません。 たとえば、「《》」「【】」「<>」「{}」「『』」などもすべて一致します。(この副作用で、比較演算子なども括弧としてヒットします。)

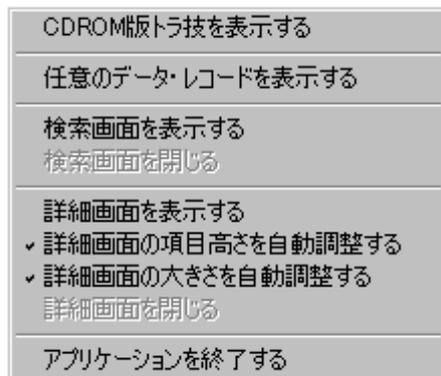
□条件が一致したら除外

すべての結果を逆転させる設定です。

これまでの説明では、条件がヒットしたデータだけが抽出され一覧リストに残るといいます。このオプションを設定すると、条件がヒットしたデータだけが結果から取り除かれます。

3.2.2 ポップアップ・メニュー

一覧表でマウスの右ボタンを押下すると、ポップアップ・メニューを表示します。



任意のデータ・レコードの表示

一覧表左側に、番号が表示されていますが、これをレコード番号と呼びます。

1から検索データ数まで順に振られています。

この操作では、一覧表に表示されている部分を変更して、指定したレコード番号が表示されるようにします。

詳細画面の項目高さを自動調整する

詳細画面の項目高さは、初期化ファイルの設定で決めることができます。

このメニュー項目をチェックすると、この初期化ファイルの高さを無視して、フォントサイズと行数で決まる高さに変更します。この設定にすると、表示するデータの文字数(行数)によって高さが変わります。

詳細画面の大きさを自動調整する

詳細画面の大きさは、マウスでウィンドウ枠をつかんでサイズ変更することができます。

このメニュー項目をチェックすると、項目高さが変わるときに、ウィンドウの高さも変更します。

3.3 詳細画面

データ・レコードを単票形式で表示します。

表示幅は、マウス操作で変更できます。

また、文字サイズと項目名の表示幅を初期化ファイルで設定することができます。

項目名表示部 次のマウス操作ができます
左ボタンでドラッグ 詳細画面の表示位置移動
左ボタン・ダブルクリック 項目高さ変更
右ボタン・ダウン ポップアップ・メニュー表示

この領域をマウスの左ボタンでドラッグすると、ウィンドウを移動できます。



項目値表示部 各項目のデータを表示します。
左ボタン・クリック 項目値を選択できます。
項目選択後、右ボタン・ダウンでポップアップ・メニューを表示し、選択した文字列をコピーできます。
Ctrl+C のショートカットも使用できます。
右ボタン・ダウン ポップアップ・メニュー表示



発行年	1964
月号	10
メイン・タイトル	おはなし電子計算機(前編)
サブタイトル	現代人の常識
種類	一般
開始ページ	p.073
ページ数	7
筆者	江崎昌男

上図は、項目高さを設定値にした場合ですが、次のような自動設定を選択できます。

注:この画面でデータを編集できるように見えますが、変更は記録されません。

3.4 ファイル出力

ファイル出力は、検索によって選択されてデータ・レコードを指定した書式でファイル出力します。出力書式は次表に示す5種類を用意してありますが、細かい点は表示される出力例を参考にしてください。

なお、出力例には200件までのデータを表示していますので、レコード数が200件以下のときは、この画面からコピー&ペーストができます。



書式	概要
CSV	各項目をカンマで区切った形式。項目内にカンマが含まれる場合はその項目全体をダブルクォートで囲みます。
CSV(TAB区切)	各項目をTABコードで区切った形式。項目内にカンマやダブルクォートが含まれていても問題になりません。
定型書式1	各レコードごとに単票形式で出力します。 項目名部は固定長で、項目名の各文字ができるだけ均等配置されるように、スペースを入れています。 出力幅(文字数)は、書式選択の下部で指定し、長い行は折り返して出力します。
定型書式2	各レコードを単票形式で出力します。 項目名と項目値はTABコードが入ります。 項目名部の表示は定型書式1と同じです。 長い行があっても折り返しません。
定型書式3	各レコードを単票形式で出力します。 項目名と項目値の間にはTABコードが入ります。 長い行があっても折り返しません。

4 検索方法

4.1 簡単な検索

複雑な操作を覚えずに、知っているキーワードだけで記事を検索します。メイン画面の上部に表示されている検索キーにキーワードを指定します。



検索するキーワードを入力する。

4.1.1 簡単検索事例 1

AVRに関する記事を検索した例を次に示します。

検索キーに「AVR」と入力して、

検索 ボタンを押下します。

この例では 19 件の記事が見つかりました。



4.1.2 簡単検索事例 2

PICを利用した USB に関する記事を検索してみましょう。

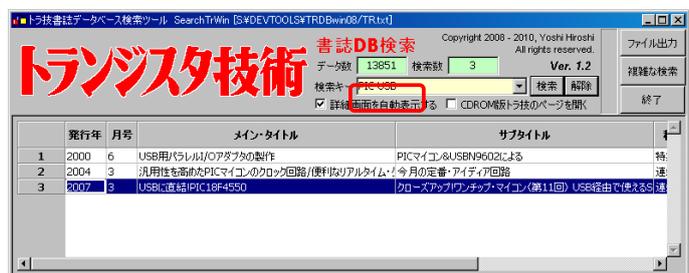
前回の続きで検索をすると、表示されている検索結果を対象としてさらに検索(絞込)を行うので、**解除** ボタンを押下して、絞り込まれていない状態に戻します。

検索キーには「PIC USB」と入力します。PICとUSBの間にはスペースを空けてください。

このように、一度に複数のキーワードを指定して検索することができます。

指定したキーワードがすべて含まれている記事だけを抽出します。

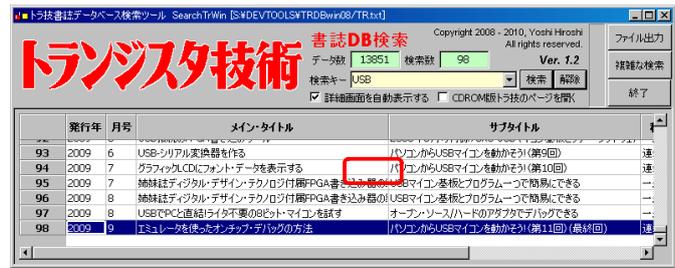
この結果は、「PIC」だけで検索した結果をさらに「USB」で検索して絞り込んだ結果と同じになります。



4.1.3 簡単検索事例 3

ここでは、絞込を組み合わせを使ってみます。

まず、キーワード「USB」で検索します。検索結果は件数もかなり多く、98件の記事が抽出されました。



さらに、キーワード「H8」で絞り込むと、2件の記事が抽出されました。

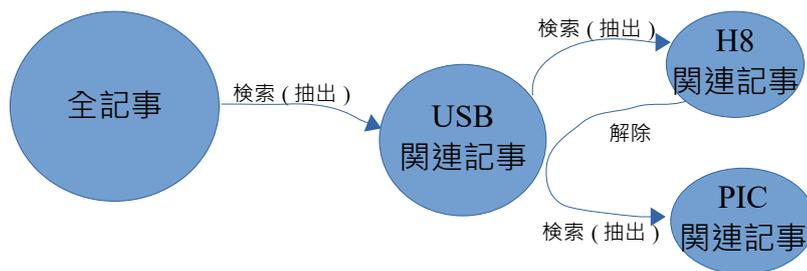


ここで一回「解除」ボタンを押してみます。このようにすると、先の「USB」で検索した時の結果が表示されます。

この状態からさらに、キーワード「PIC」で絞り込んでみましょう。PICとUSBについて書かれた記事が3件抽出されました。



このように、途中まで絞り込んだ結果から、さらに絞り込むだけでなく、途中までもどって別の検索パターンを試してみることが可能になっています。



4.2 複雑な検索

メイン画面からは、複数のキーワードの AND 条件での検索と、詰め込み検索が行えるようになっていますが、もっと複雑な絞込を行うための検索画面を用意しました。

必要性を確認するために、簡単な検索を行ってみます。

まず、キーワード「PIC」で検索してみましょう。

263 件の記事が抽出されています。しかし、「SPICE」の記事が多数混入しているようです。キーワード「SPICE」で検索すると 78 件見つかります。でも、見たいのは消えてしまった 185 件です。さあ、どうしましょう。

このような時は、右のように設定します。

まず最初の行では、キーワード「PIC」が含まれる事を指定します。

2 行目では、キーワード「SPICE」が含まれないことを指定します。

そして、それを AND 条件で結んでいます。

すなわち、記事の中に、「PIC」が含まれていて、かつ、「SPICE」が含まれていない記事を抽出します。

このようにすると、PIC だけの記事が 185 件一覧表示されます。



発行年	月号	メインタイトル	サブタイトル	
179	ALL	マイコン関係のCCPが30%	言語によるマイコンのプログラミングの手順をまとめる	
180	2009	4	△変調器によるSDACの出力ノイズ抑圧法	量子化値やフィルタによる違いを比較して実験
181	2009	6	LV23400V/AMT00/SPIC33F_G5/MC9S08S16	最新の新品
182	2009	7	最新32ビットPICマイコンの威力	多機能信号発生器の製作で評価する
183	2009	8	PICマイコンを使った「静電容量計」の製作	静電容量式キャパシタの原理と使い方が分かる
184	2009	9	特殊なPICを使った降圧DC-DCの製作	実際に作って動かすまでの手順を述べる
185	2009	11	DCモータの回転を制御する方法	PICマイコンを使った制御

4.2.1 複雑な検索事例 1 (項目の指定)

ここでは、項目を指定する検索事例を示します。

たとえば、「PIC」で「84」タイプのプロセッサを使用した記事を検索します。

32 件見つかりましたが、実は関係ない記事が含まれています。

実は検索範囲が「全項目」になっているので、開始ページが 284 ページとかその他いろいろな偶然でヒットすることがあります。

このような時は、「PIC」で検索した後、右図のようにメインタイトルに「84」が含まれるか、サブタイトルに「84」が含まれるか、OR で結んで検索を行います。

発行年	月号	メインタイトル	サブタイトル	
27	2004	10	PIC16F84Aとピン互換で高機能な改良版PIC16F628Cで作り直したPICマイコン入門(第10回)	
28	2005	1	PIC16F84Aで学ぶPICマイコンプログラミング	外付けROM搭載型を併用して直接書き込み
29	2005	7	PIC06EPDQと入力ロジックレベルの極	PIC16F84Aの16F87Aへ移行する際の落とし穴
30	2008	2	能動型電力マイコンPIC12F629	ワンチップマイコン探訪
31	2008	6	PICマイコン16F84Aの極	定番部品を再チェック
32	2009	2	PIC16F84Aエミュレータの製作	CPLDで作ったPIC16F84Aエミュレータの検証



この結果、次の 30 件が抽出されました。

発行年	月号	メインタイトル	サブタイトル
24	2004 1	手帳に使える19ピンPICマイコンPIC16F844の概要	はじめのPICマイコン入門(第1回)
25	2004 3	1個のLEDを点滅させるシンプルなプログラムで始めるPIC16F84	はじめのPICマイコン入門(第3回)
26	2004 10	PIC16F84とピン互換で高機能な改良版PIC16F628で作る	はじめのPICマイコン入門(第10回)
27	2005 1	PIC16F84でアルチラ社FPGAをコンパイル	外付けROM用端子を利用して直接書き込み
28	2005 7	PICのEEPROMと入出力ロジックレベルの怪	PIC16F84から16F87へ移行する際の疑と穴
29	2008 6	PICマイコン 16F84Aほか	定番部品を再チェック
30	2008 2	PIC16F84でモーターの動作	PLD/GTEでPIC16F508とモーターの動作

4.2.2 複雑な検索事例 2 (複数キーの OR 検索)

たとえば、複数のキーワードのどちらかが含まれている記事を一覧表示したいことがあります。このときは、【複数キーの OR 検索】を使用します。

右図に、「AVR」「H8」「MSP」の各マイコンに関する記事を検索する時の設定を示します。



先にも示したように、検索キーに複数のキーワードを設定した場合には、AND 条件で検索しますので、複雑検索画面の右にあるチェックボックス【複数キーの OR 検索】をチェックします。

これで、OR 検索が可能になります。

検索キーを 3 行に分けて OR で結んでも同じ結果になりますが、多用する時はこの【複数キーの OR 検索】機能を利用した方が簡単です。

4.2.3 絞込レベル

簡単検索事例 3 でも示したように、検索を段階的に行い、絞込みが可能です。

この、1 回ごとの検索を絞込レベルと呼びます。

簡単検索では何回絞り込んだかなどの情報を知ることができませんでした。

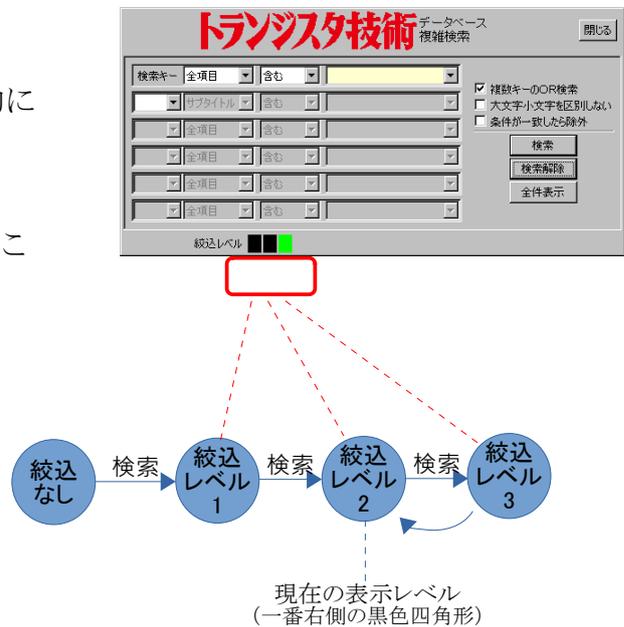
検索画面では、この絞込レベルを目視できるようにしています。

右の例では 3 回絞り込んでいます。

緑色の■は、一度絞り込んだ後表示を戻している事を示します。

右の例では、レベル 3 まで絞り込んだ後、レベル 2 の検索結果を表示しています。

四角をクリックすることで、任意の絞込レベルの検索結果を表示することができます。



5 入力ファイルの形式

入力ファイル例を次に示します。

この例では、入力ファイルの5行目までを1行ごとに表示しています。

行	内容
1	発行年,月号,メイン・タイトル,サブタイトル,種類,開始ページ,ページ数,筆者
2	1964,10,ラジオをなぐる／小を似て大を制す,随筆トランジスタ・Ten Nine,連載,p.001,1,入江相政／吉田義男
3	1964,10,トランジスタはこうして作られる,エレクトロニクスの立役者,グラビア,p.021,3,
4	1964,10,トランジスタとその発達の歴史,,一般,p.025,5,多田正信
5	2003,4,FETを理解しよう,"JFET, MOSFET, MESFET, CMOS など",特集,p.141,11,渡辺 明禎

入力ファイルの概要

項目	概要
レコードの並び	1行目には、項目名を定義したレコードを入れてください。 2行目以降が、実データです。
文字コード	シフトJISコードです。
レコード長	標準的なテキストファイルで、可変長レコードです。 1レコードの終わりは、CR/LFで終了します。
項目の区切 (セパレータ、あるいは、デ リミタ)	項目名を含めて、各項目の区切りはカンマあるいはTABコードです。 オプションで、TABコードのみを選択した場合は、カンマもデータとして扱います。
特殊文字の扱い	カンマが項目内に含まれる場合、その項目全体をダブル・クォーテーションで囲みます。 上表で、5行目の4項目目が、その例です。 ただし、項目の区切をオプション設定でTABコードのみとした場合は、ダブル・クォーテーションで囲まないでください。

6 初期化ファイル

初期化ファイルは、起動時に読み込む CSV ファイルや、一覧表示する項目ごとの表示幅などを設定するファイルです。

初期化ファイルは、2 種類用意することができます。

1 つ目は、ブート用初期化ファイルで、あらかじめ決められた場所に格納されている必要があります。

もうひとつは、ユーザー初期化ファイルで、ブート用初期化ファイルによって指定された場所に格納します。

ブート用初期化ファイルは、カレント・ワーキング・ディレクトリ(普通はプログラムが格納されているディレクトリ)の下の次の場所のいずれかにに格納する必要があります。

直下(プログラムと同じ場所)

conf ディレクトリの下

defs ディレクトリの下

ini ディレクトリの下

プログラムのショートカット設定で、複数のデータベース検索環境を簡単に構築できます。

ユーザー初期化ファイルの使用は任意です。

ユーザー初期化ファイルは、ブート初期化ファイルの設定でユーザーごとに格納するように選択することができます。このときはユーザーのホームディレクトリ下に格納すると便利です。

標準では、defs フォルダの下に配置しています。

また、CDROM 版トラ技のページ表示に関連して、各パソコンの状態に応じて修正する可能性が高い次の3つの項目にマークをつけていますので、修正の参考にしてください。

```
PdfFileRootDir=CDROM
```

```
PageViewer=C:/Program Files (x86)/Adobe/Reader 11.0/Reader/AcroRd32.exe
```

```
pageViewerParam=/A page=%page% %pdf%
```

SearchTrWin.ini ファイルの内容

注:設定項目の先頭に#マークをつけると、その設定は無効となります。

```
#
# このファイルは、SearchTrWin の表示を制御するファイルです。
# また、設定によっては画面が見にくくなることがありますので、
# その場合は設定を変更してください。
#
#####
#
#       初期ファイル、基準となるディレクトリの設定
#
#       最初の3つの項目は、CWD 直下の初期化ファイル内で設定した
#       場合のみ有効です。
#
#####
```

```

=====+
#
#                               IniFileInCWD
#
=====+
#
#       作業用ルート・ディレクトリの設定
#
#       0:ユーザーのホームディレクトリとします。
#       1:カレント・ワーキング・ディレクトリとします。(default)
#
#IniFileInCWD=0

=====+
#
#                               UserIniFileDir
#
=====+
#
#       初期化ファイル・ディレクトリの設定
#
#       初期化ファイルを相対パスで指定するときの
#       上位ディレクトリを設定します。
#       絶対パスで指定すると、IniFileInCWD を無視します。
#       相対パスで指定したとき、IniFileInCWD で決まる
#       作業用ルート・ディレクトリからの相対パスとなります。
#
#UserIniFileDir=Documents/SearchTrWin

=====+
#
#                               UserIniFileName
#
=====+
#
#       初期化ファイルの名称
#
#       デフォルトは、SearchTrWin.ini
#
#UserIniFileName=SearchTrWin.ini

=====+
#
#                               UserFileInSameRoot
#
=====+
#
#       ユーザー・ファイル・ルート・ディレクトリの設定

```

```

#
#      0:ユーザーのホームディレクトリとします。
#      1:初期化ファイル・ディレクトリと同じにします。(default)
#

#UserFileInSameRoot=1

#=====+
#
#      UserFileDir
#
#=====+

#
#      ユーザー・ファイル・ディレクトリの設定
#
#      ユーザー・ファイルを相対パスで指定するときの
#      上位ディレクトリを設定します。
#      絶対パスで指定すると、UserFileInSameRoot を無視します。
#      相対パスで指定したとき、UserFileInSameRoot で決まる
#      ユーザー・ファイル・ルート・ディレクトリからの相対パス
#      となります。
#

#UserFileDir=

#=====+
#
#      OutFileInSameRoot
#
#=====+

#
#      出力ファイル・ルート・ディレクトリの設定
#
#      0:ユーザーのホームディレクトリとします。
#      1:初期化ファイル・ディレクトリと同じにします。(default)
#

#OutFileInSameRoot=1

#=====+
#
#      OutFileDir
#
#=====+

#
#      出力ファイル・ディレクトリの設定
#
#      出力ファイルを相対パスで指定するときの
#      上位ディレクトリを設定します。
#      絶対パスで指定すると、OutFileInSameRoot を無視します。
#      相対パスで指定したとき、OutFileInSameRoot で決まる
#      出力ファイル・ルート・ディレクトリからの相対パスとなります。

```

```

#
OutFileDir=dbout

#-----+
#
#                               PosFileInSameRoot
#
#-----+
#
#       動作状態記録ファイル・ルート・ディレクトリの設定
#
#       0:ユーザーのホームディレクトリとします。
#       1:初期化ファイル・ディレクトリと同じにします。(default)
#
#PosFileInSameRoot=1

#-----+
#
#                               PosFileDir
#
#-----+
#
#       動作状態記録ファイル・ディレクトリの設定
#
#       動作状態記録ファイルを相対パスで指定するときの
#       上位ディレクトリを設定します。
#       絶対パスで指定すると、PosFileInSameRoot を無視します。
#       相対パスで指定したとき、PosFileInSameRoot で決まる
#       動作状態記録ファイル・ルート・ディレクトリからの相対パス
#       となります。
#
#PosFileDir=defs

#-----+
#
#                               PosFileName
#
#-----+
#
#       動作状態記録ファイルの名称
#
#       デフォルトは、SearchTrWin.pos
#
#PosFileName=SearchTrWin.pos

#####
#
#       基本的な設定

```

```

#
#     動作の基本的な部分にかかわる設定項目です。
#
#####
#-----+
#                                     |
#           DatabaseFilename           |
#                                     |
#-----+
#
#     CSV ファイルの名称
#
DatabaseFilename=TR.txt
#-----+
#                                     |
#           DefaultOutputFilename     |
#                                     |
#-----+
#
#     ファイル出力時のデフォルトファイル名称
#
DefaultOutputFilename=TRDBOut.txt
#-----+
#                                     |
#           MainTitle                  |
#                                     |
#-----+
#
#     ウィンドウのタイトル
#
MainTitle=トラ技書誌データベース検索ツール SearchTrWin
#-----+
#                                     |
#           IconFilename               |
#                                     |
#-----+
#
#     アイコン・ファイルの名称
#
IconFilename=defs/std.ico
#-----+
#                                     |
#           LogoFilename               |
#                                     |

```

```

#
#=====+
#
#           メイン画面に表示する画像ファイルの名称
#
LogoFilename=defs/tr-logo.gif
#=====+
#
#           SearchLogoFilename
#
#=====+
#
#           検索設定画面に表示する画像ファイルの名称
#
SearchLogoFilename=defs/searchlogo.gif
#=====+
#
#           DetailAutoShow
#
#=====+
#
# 一覧レコードを選択したときの、詳細画面表示許可
#
#           0:詳細画面を自動表示しない。
#           1:詳細画面を自動表示する
#
#           自動表示とは、カーソル移動やマウスクリックで
#           一覧画面のレコードを選択したときに、
#           詳細画面がポップアップされる、あるいは
#           詳細画面のレコードデータが更新されることです。
#           [自動表示しない]を選択したときは、レコードの
#           ダブルクリックで詳細画面を表示します。
#
DetailAutoShow=1
#=====+
#
#           PageAutoShow
#
#=====+
#
# 一覧レコードを選択したときの、誌面表示許可
#
#           0:誌面を自動表示しない。
#           1:誌面を自動表示する
#
#           誌面表示とは、カーソル移動やマウスクリックで

```

```
# 一覧画面のレコードを選択したときに、
# 選択した記事の誌面を表示します。
# この機能は、CD-ROM 版のトランジスタ技術誌を
# 購入されている場合だけ、使用することができます。
# それ以外の方は、ファイルなしのエラーとなります。
#
```

```
PageAutoShow=1
```

```
#-----+
#
# PdfFileRootDir
#
#-----+
```

```
#
# CD-ROM 版のトランジスタ技術誌がインストールされている
# ディレクトリを指定します。
#
# 下記構成でファイルが格納されているものとします。
#
```

```
# [PdfFileRootDir] +--- 2008
# | +--- TR200800.pdf
# | +--- TR200801.pdf
# | +--- :
# | +--- TR200812.pdf
# +--- 2009
# | +--- TR200900.pdf
# | +--- TR200901.pdf
# | +--- :
# | +--- TR200912.pdf
#
```

```
PdfFileRootDir=CDROM
```

```
#-----+
#
# PageViewStartModFile
#
#-----+
```

```
#
# 各月の先頭アートの開始ページを設定します。
# デフォルトは4ですが、異なる場合は、このファイル内で設定します。
#
```

```
PageViewStartModFile=TRmod.txt
```

```
#-----+
#
# PageViewer
#
#-----+
```

```

#
#       誌面を表示するプログラムを指定します。
#
# PDF XChange Viewer
##PageViewer=C:/Program Files/Tracker Software/PDF Viewer/PDFXCview.exe
# SumatraPDF
##PageViewer=C:/Program Files (x86)/SumatraPDF/SumatraPDF.exe
# SkyPDF
##PageViewer=C:/Program Files (x86)/SKYCOM/SkyPDF Viewer/SPViewer.exe
# Foxit J-Reader Plus
##PageViewer=C:/Program Files (x86)/Foxit Software/Foxit J-Reader Plus/Foxit Reader.exe
# Acrobat Reader
PageViewer=C:/Program Files (x86)/Adobe/Acrobat Reader DC/Reader/AcroRd32.exe
# batch file
##PageViewer=pdfViewer.bat

```

```

#-----+
#
#           PageViewerParam           |
#-----+
#
#       誌面を表示するプログラムを起動するときの
#       パラメタを指定します。
#       次の記号を使って、ファイル名やページを指定します。
#           %pdf%       pdfファイル名を埋め込みます
#           %page%     ページ番号を埋め込みます
#

```

```

# PDF XChange Viewer
##pageViewerParam=/A "page=%page% zoom=100 pagemode=bookmarks" %pdf%
# SumatraPDF
##pageViewerParam=-reuse-instance -zoom 125 -page %page% %pdf%
# SkyPDF
##pageViewerParam=%pdf% /A page=%page%
# Foxit J-Reader Plus
##pageViewerParam=%pdf% -A page=%page% zoom=125 pagemode=bookmarks
# Acrobat Reader
pageViewerParam=/A page=%page% %pdf%
# batch file
##pageViewerParam= %page% "%pdf%"

```

```
#####
#
#           レコード一覧画面の各項目表示
#
#####
```

```
#-----+
#
#           RecordListWidth_xx
#
#-----+
```

```
|
|
|
```

```
#
#   各項目の表示幅指定
#
#   ゼロを指定すると、デフォルトの幅で表示します。
#   幅がゼロの項目は設定を省略できます
#
```

- RecordListWidth_0=48
- RecordListWidth_1=36
- RecordListWidth_2=300
- RecordListWidth_3=300
- RecordListWidth_4=48
- RecordListWidth_5=60
- RecordListWidth_6=48
- RecordListWidth_7=120
- RecordListWidth_8=0
- RecordListWidth_9=0
- RecordListWidth_10=0
- RecordListWidth_11=0
- RecordListWidth_12=0
- RecordListWidth_13=0
- RecordListWidth_14=0
- RecordListWidth_15=0
- RecordListWidth_16=0
- RecordListWidth_17=0
- RecordListWidth_18=0
- RecordListWidth_19=0

```
#####
#
#           レコード詳細画面の各項目表示
#
#####
```

```
#-----+
#
#           FieldListHeight_xx
#
#-----+
```

```
|
|
|
```

```

#       各項目の表示高さ指定
#
#       ゼロを指定すると、デフォルトの高さで表示します。
#       高さがゼロの項目は設定を省略できます
#

FieldListHeight_0=24
FieldListHeight_1=24
FieldListHeight_2=96
FieldListHeight_3=96
FieldListHeight_4=24
FieldListHeight_5=24
FieldListHeight_6=24
FieldListHeight_7=72
FieldListHeight_8=0
FieldListHeight_9=0
FieldListHeight_10=0
FieldListHeight_11=0
FieldListHeight_12=0
FieldListHeight_13=0
FieldListHeight_14=0
FieldListHeight_15=0
FieldListHeight_16=0
FieldListHeight_17=0
FieldListHeight_18=0
FieldListHeight_19=0

#=====+
#
#           AutoRowSize
#
#=====+
#
#       各項目の表示高さ指定の有効/無効の初期値
#
#       0:各フィールドの表示高さを上記で指定した値とする
#       1:各項目の高さを、項目値にしたがって自動計算で求める。
#
#       各項目の表示高さは、詳細画面の項目名部分をダブルクリック
#       することで、[指定値]←→[自動計算]を切替えます。
#       ここではプログラム起動直後の初期状態を設定します。
#

AutoRowSize=0

#=====+
#
#           FieldLabelFontSize
#
#=====+
#
#       詳細画面のフォントサイズ

```

```

#
#       注:8pt <= FieldLabelFontSize <= 28pt
#
FieldLabelFontSize=10

#=====+
#
#               FieldLabelWidth
#
#=====+
#
#       ラベル部(項目名称)の表示幅
#
FieldLabelWidth=100

```

7 動作状態記録ファイル

ウィンドウの位置と、いくつかの設定項目を記録しておきます。

次回起動時の初期化に使用します。

このファイルが存在しないときはデフォルト状態で起動します。

格納場所は、デフォルトでは初期化ファイル・ディレクトリですが、初期化ファイルの設定で、ディレクトリの位置とファイル名を変更できます。

SearchTrWin.pos ファイルの内容

```

MainWindow_Left=19
MainWindow_Top=204
MainWindow_Width=800
MainWindow_Height=480
Search_Left=674
Search_Top=0
Detail_Left=663
Detail_Top=760
Detail_Width=606
DetailAutoRowSize=1
DetailAutoResize=1
DetailAutoShow=1

```

8 開発履歴

年月	リビジョン	概要
2008年12月	Rev 1.0	初版発行
2010年11月	Rev 1.2	記事ページ表示機能追加
2013年3月	Rev 1.3	PDFビューワの起動方法変更
2013年4月	Rev 1.4	トラ技 CDROM ファイル名の変更に対応
2019年4月	Rev 1.5	記事 PDF ファイルのサブディレクトリ化に対応